

言語活動を意識した授業づくりとその評価

技術・家庭科 中村 正寛
橋本 正恵

1. テーマ設定の理由

本校技術・家庭科では、昨年度より言語活動の充実を意識した授業づくりを研究のテーマとし、実践と検討を重ねてきた。

学習指導要領の技術・家庭科の目標は「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」である。この中で「言語活動」に特に深く関わるのが「進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」の部分である。生活する上で直面する様々な問題の解決に当たり、今まで学んだ知識と技術を応用した解決方法を探究したり、組み合わせ活用したりすること、それらを基に自分なりの新しい方法を創造することなど、実際の生活の中で生かすことができる能力と態度を育てる場面で、「言語活動」が大きな役割を果たすことは昨年度までに確認できたように思う。そこで今年度は、その「言語活動」による「創意し工夫する能力」がどの程度生徒に獲得されたのか、ということの妥当性・信頼性をもって評価できる評価の在り方について考え実践することを研究テーマとした。特に題材を通して、中長期的な期間で生徒の能力がどう変容し獲得されていくのかという過程を重視した評価の開発に取り組むたいと考えた。

2. 技術・家庭科における言語活動について

本校技術・家庭科ではこれまでもレポートや観察日記などの作成を通じて「言語活動」を行ってきた。

今回文部科学省から示された「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」には「①体験から感じ取ったことを表現する。②事実を正確に理解し伝達する。③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。④情報を分析・評価し、論述する。⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。」というポイントが示されている。どのポイントも技術・家庭科の授業においては、なじみが深くこれまでも言語活動の中に取り入れられてきた要素ではある。今年度は改めて重視するポイントを明確にしながらその評価を含めた授業の工夫に取り組んだ。

3. 言語活動の場面

(1) 技術分野における実践例

「A 材料と加工に関する技術（製作品の設計と製作）」

①言語活動の場

「フォトスタンドの製作」の設計の時間に、言語活動の場を設けた。場は、構想図より「構想図を描くことで考えを整理する。」「設計者の考えを読み取る。」「発表しあうことでより良いアイデアに気が付く。」などの言語活動があると考えた。

材料は土台部は木材（シデ）、写真受け部は金属（黄銅）とアクリル板とでの構成である。課題の条件として、

- 1：製作後、水平な机天板にフォトスタンドを置くと写真が斜めになっていること。
- 2：写真背面の金属板の素材は平面で、折り曲げ加工は直角にしか曲げられない。
- 3：前面は少し傾斜させる。

の3点とした。

構想段階であるためワークシート（B4縦）は、土台の側面図のみを描くこととした。また、様々な形状を考えさせるために、試案1の部分（図1上部）は等倍で描かせた用紙を班発表後に貼り付けることとした。

試案1の活動後、班内で発表を行わせ班の中より課題ができており、かつ、使用工具が適切なもののうちから班代表の試案として学級で発表させた。

学級での発表後、質疑応答の時間を設け、その後、使用する工具などの有無、加工時間、加工の難易度などの補足説明を行い、試案2（図1下部）を考えさせる授業を行った。

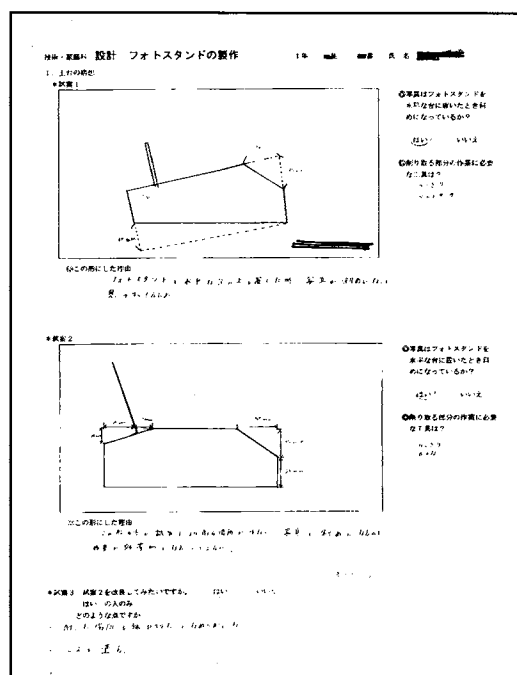


図1 ワークシート例

②評価する観点

設計における評価観点は「生活を工夫し創造する能力」である。この観点項目を設計図で評価を行うことは難しい。生徒自身の力で設計ができなかったとき、他の生徒の設計を、何も考えずにそのまま真似てしまうなどが考えられるためである。そこで、生徒自らが記入した設計図よりも、本時の項目としては、ワークシートの試案1、試案2に記載されている内容より評価することとした。

試案1での評価

観点あ：課題1 課題2の条件ができています。

観点い：加工用工具が選択されている。（未経験の工具や所有の有無は可）

観点う：形状の理由が記載されている。（加工の難易度は問わず）

とし、3観点ともできていれば「おおむね満足できる」状況と判断されるものを「B」、Bの中

から特に「十分満足できる」状況と判断されるものを「A」とした。

試案2での評価

観点あ：課題1課第2の条件ができています。

観点い：加工用工具が適切に選択されています。(本校にない工具は不可)

観点う：試案1を踏まえ、級友からのアドバイスや自分の考えを基に形状を決定した理由が記載されています。

とし、3観点ともできていれば「おおむね満足できる」状況と判断し「B」、Bの中から特に「十分満足できる」状況と判断されるものを「A」とした。

③評価のフィードバック方法

班内での発表後、班代表の試案として学級で発表させた。生徒が試案した土台部の構想は、大きく分けると4タイプであった。

- ・最も多く考えられた形は、底の面を斜めに削る(図1の上)。(タイプ1)
- ・2番目は、上面は平らであるが金属板を少しだけ曲げ取り付け方向を逆にする。(タイプ2)
- ・次が上面の一部分に切りかけを斜めに作り金属板を斜めに置く。(タイプ3)
- ・少数派は背面を傾斜させる(図1の下)。(タイプ4)

生徒間の話し合いの様子は、タイプ2に関しては、「デザイン的にあまり喜ばしくない。」との意見や、タイプ3では加工時の工具や加工方法についての質疑が出され、発表者本人達も加工の難易度までは考えてはいなかったようにみうけられた。

試案2に移る前に、自分の考えをまとめる意味では、このような方法でのフィードバックは有効だと感じられた。

(2) 家庭分野における実践例

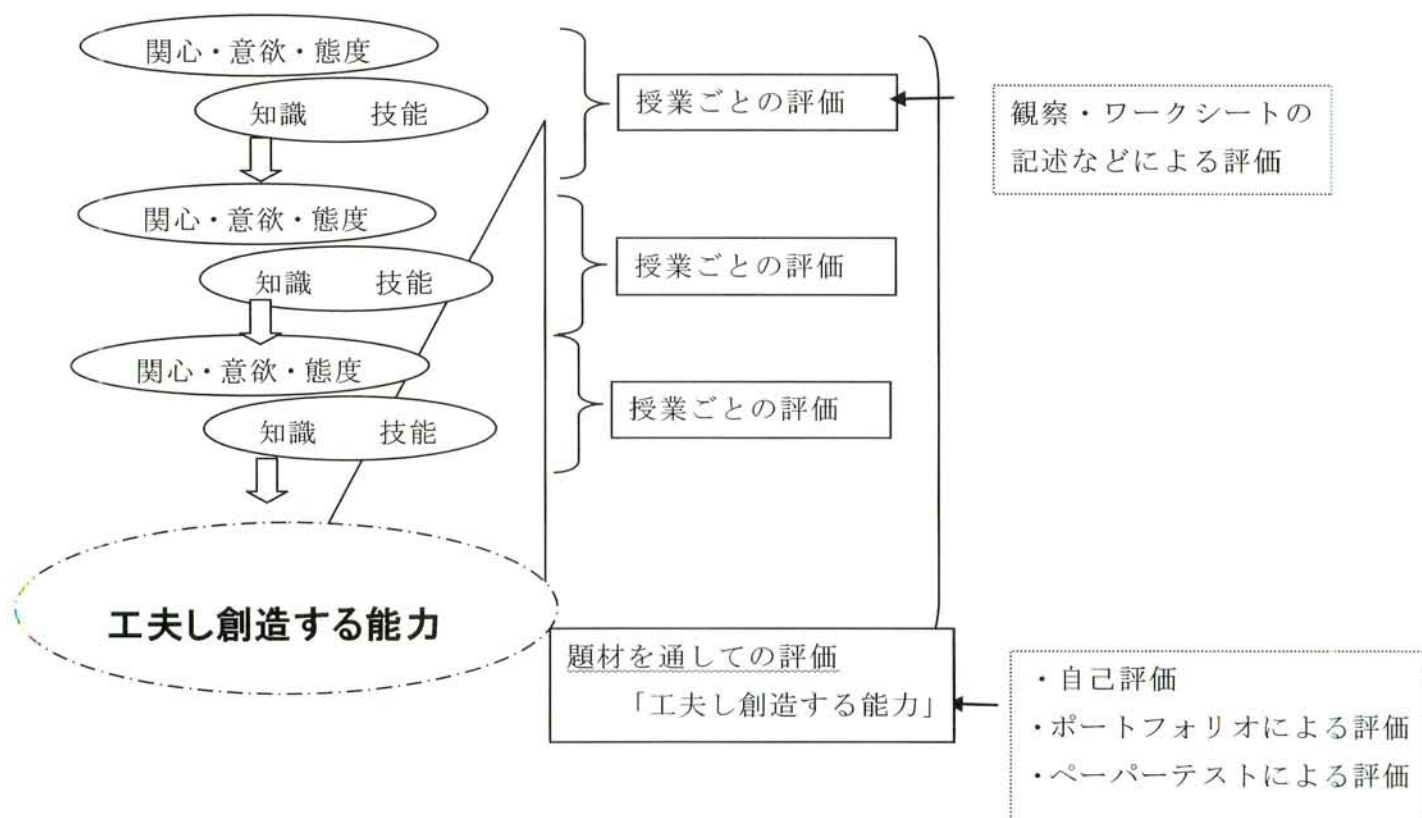
①言語活動の場

授業で扱う各題材（各8～12時間）において言語活動の場をもうけるような授業配置を行った。特に今年度は、題材のはじめから終わりまで通して使うことのできるワークシートの工夫に取り組み、生徒が各授業における学習の振り返りをしつつ、中長期的な自身の思考の変化をたどることのできるように計画と実践を行った。なかでも「課題と実践」の学習においては「計画→実践→評価→改善」という問題解決的な学習活動を設定し、「工夫し創造する能力」を育て評価する方法の検討をした。

②評価する観点

「生活を工夫し創造する能力」は習得した「知識・理解」と「技能」をもとに、その活用を促した結果として育成されるものである。そしてその基盤には「生活や技術への関心・意欲・態度」が常に活性化されていなければならない。そこで「生活を工夫し創造する能力」の評価のためには、1時間ごとに「関心・意欲・態度」と習得した「知識・理解」の評価を明確にしつつ、その上で中長期的に育成された「工夫し創造する能力」を評価することを基本と考えた。

【題材を通しての評価】



【実践例】

これまで生徒の創意工夫の場面の設定をしにくいと感じていた衣服の授業で、言語活動を重視した学習を取り入れた授業づくりをと考え、新学習指導要領から取り入れられた「和服の着装」の授業の中で設定した。創意工夫の前述の要素を組み合わせ、「和服の活用を考えよう」という題材を設定した。ここでは調べ学習による知識・理解にとどまることなく、「体感をもって理解する」ことを重視し、さらにその体験と理解をふまえて、生徒自身の生活の課題の発見と解決をはかることを目標とした。2年生の授業において題材「和服の活用を考えよう」（9時間）を設定した。この題材では取り組んでいる期間中の1時間ごとの評価とともに中長期的な評価に意識して取り組んだ。生徒の思考の過程を記録するワークシートを活用し、その時間の学習・体験で自分がどのように変化したかを生徒自身が記録した。事前の調査によると、そもそも生徒は「和服」に関してもその体験の少なさからか、関心・意欲はあまり高くなかった。しかし実際に浴衣を全員に着てもらうことを伝えた後は各自家の人に教えてもらったり、インターネットなどで調査をしたりして、実習への意欲が高まっていた。また、「和服の活用を考えよう」という課題が与えられた後は、自分自身が当事者であるという意識が高まり、いかに「和服のよさ」を感じ取りそれを表現するか、について試行錯誤している姿がワークシートなどから読み取れた。またその中では、「自分はめんどうに感じたのだけど、他の人はどうなのだろう…」と意見を交換する姿や「短所を補うためには何か方法がないのかな…」と思索する姿が多く見られた。



【実際のワークシートの表記と評価の例】 ペーパーテストの記述より

着るのに時間がかかるけれど、日本の伝統文化を継承する為には必要なもので、行った場で着ていけばよい。

都市の生活では、動きやすさなどから考え和服を活用するのは難しいと思うが、かきこまった会や特別な物ときは気品さを感じる和服を人ごん着ればいいと思う。

忙しい生活のためには和服も着ないのが一番だと思う。なので和服は動きにくいし、着るのに時間がかかるし、高いしで、着ごこちがいいなどのメリットに対しデメリットが多い。

祭りのときなどに着る。日本のお祭りは伝統的なものもあって日本固有のものだからという場には、外国のものや洋服ではなく、日本の本来の衣服である和服を着たらいいと思う。

和服は、洋服より動きにくいけれど、洋服よりもきちっとした印象をあたえると思う。例えば、初もうでだったり結婚式などあらたまった場に着ていけばいい。また、あらたまった場だけでなく、ゆかたは夏に着ていると涼しいし、きつぱりした服ではなく、ゆかたゆきを着ていけば動きやすいと思う。

評価のポイント

- 衣服の着用目的（「保健衛生上の機能」「社会生活上の機能」）がふまえられているか。
 - 両方についての記述があればB
 - 両方について具体的な例をしめして説明できていればA
- 生活上の場面が示されているか。
 - 具体的な例を示して説明できていればB
 - 理由を明らかにして具体的な場面を示して説明できていればA

4. 成果と課題

技術分野では、生徒は試案1の段階では自分自身のあいまいな考えを整理しながら表現をしている。また、加工用工具についても教科書などから調べ記入していた。班内や学級での意見交換の場では、他者からの意見を基に、検討や修正を重ねながら試案2へと進む姿が見られた。

内容「A 材料と加工に関する技術」では、この（製作品の設計と製作）と（材料の特徴を知ろう）の2項目で「生活を工夫し創造する能力」の言語活動について実践を試みた。授業は、考える時間・書くための時間、発表し意見交換のための時間など時間を確保する必要性が出てきた。そのため、他の学習活動の時間（作品を製作するための時間）を大幅に短縮する必要性が感じられた。

ワークシート作成では、生徒が書きやすく、教師が評価し易いものに改良していく必要性が感じられた。

家庭分野では、これまでも活動に関する取り組みを数多く取り入れてきたのだが、その評価に関しては題材ごとに個別に設定した評価が主である。ルーブリック的な評価の指標づくりにも取り組み検討中であるが、実際の授業に取り入れるには、複数の教員の評価が必要であったり、時間の問題があったりなどして、難しい面がある。今後、大学の先生・学生などの協力を得て、指標づくりをすすめていきたい。同時に体験や観察などをより生徒の創意工夫につなげていける課題の開発や生徒個人の成長の様子をより個別に評価できる評価を取り入れることにも取り組んでいかなければならない。

